校長　緒方 康裕

【杉並区教育ビジョン２０２２】　　私たちが大切にしたい教育

『みんなのしあわせを創る杉並の教育』

ともに尊重し、大切にしたいことは以下の３点

・学び合い、信頼をつくり、共に生きる
・違いを認め合い、自分らしく生きる
・誰もが社会の担い手として生きる

１　学校教育目標

持続可能な社会の創り手として、豊かな人生を「自立・創造・協働」しながら切り拓く力を備えた、礼儀正しく人間性豊かな児童の育成を目指す。

〇考えて やりぬく浜小の子　　◎**やさしく 助け合う浜小の子**　　〇明るく つよい浜小の子

２　学校教育目標に照らし合わせた、めざす学校像、児童像

考えて やりぬく子	**◎やさしく 助け合う子**	**明るく つよい子**
情報の選択や活用ができ 発信する児童が育つ学校	自他を尊重し 笑顔のあふれる学校	夢と創造性を伸ばす学校
主体的・対話的に学び、 **発信**する児童	心豊かで、 友達と**協働**する児童	前向きで粘り強く、 **創造**する児童

３　学校・家庭・地域の連携

学校・教職員の目指す姿

・授業力向上と自己研鑽
・教育公務員として服務規律を遵守し、信頼される教育者に
・児童や保護者の心情に寄り添う指導を心掛ける

家庭理解 →

家庭・保護者の理想の姿

・子どもの良さを認め、褒める
・範囲意識を保護者の背中で見せられるような親子関係の構築
・第一義的責任を有する保護者としての責務

児童理解 ↔

← **学校理解**

相互連携　　相互連携

学校、家庭を支えてくださる地域

・学校運営協議会　　・学校支援本部
・浜田山小ＰＴＡ　　・青少年育成員会
・浜田山町会他、近隣町会　　・学童クラブ
・ＰＭＰ（見守り）他、見守り各種団体
・はまきち　・高井戸警察署　・関係諸機関

働き方改革（教育の質を高める改革）への理解・協力を得ながら、強力に推進していく。

心を育てる　心が育つ
自己受容・他者理解
非認知能力の育成
自立と協働

４　本校の現状および教育目標達成のための基本方針

（１）本校の現状

「コロナ禍」という言葉が久しく感じるくらい、学校行事が以前のように行えるようになり、学校教育全体の内容も大きく変わってきた。これはＰＴＡ活動や地域主催の行事も同様で、浜田山小学区域全体が大きく活性化した令和５年だった。

令和６年度も同様の状況となるが、この間に精選してきた教育活動や学校行事もあり、学校教育目標や本校児童につけさせるべき資質・能力に照らし合わせ、すべての活動を元に戻すことを前提にするのではなく、各活動をしっかり精査していく。その上で、「子どもたちの心を育てる、子どもたちの心が育つ教育活動」に必要な手立てを構築していきたい。「浜小スタンダード」は毎年見直し、遵守していくことで安全・安心な学校づくりを継続していく。

令和６年度は８４０名、２７学級でスタートした。区内小学校では１，２を争うくらい児童数が多く、平成２８年度以降、１００名以上増加している。人気の土地柄ということもあり、今後も大きく減少する見込みがなく、普通教室不足の心配は尽きない。それに伴い配慮を要する児童対応のためのスペースが確保できず十分な支援ができていない現状がある。今後も教室配置等施設の適正規模と、それに伴う教職員の適切な配置、さらには老朽化の進む施設の改善・改修に関しても、学校運営協議会と歩調を合わせ区教委へ要望していく。

保護者や地域の教育に対する意識や期待は高く、また教育活動には大変協力的である。学校運営協議会は今年度で発足７年目を迎え、地域の核となるＣＳとしての役割を担うために学校支援本部や本校ＰＴＡとも連携を深め、信頼関係をさらに強固にしていく。昨年度は開校７０周年を迎え、学校・保護者・地域が大きな目標を共有できた。今年度は地域の期待に応える年、感謝の思いを具現化する年にし、「協力したくなる学校、応援したくなる学校」を目指していきたい。

児童の授業に取り組む姿勢は意欲的であり、知識・技能面、特に「得点」としての学力は区内でもトップクラスである。一方でここ数年の杉並区課題調査や全国学力・学習状況調査等の各種意識調査では、「内発的な学習意欲」「協働的な学び」「自己肯定感」等の非認知能力に関しては、都や区の平均を数ポイント下回っている傾向が続いている。規模縮小が続いていた各行事や活動は、精査しながらも協働的な学び、仲間とのかかわりを重視した形で教育課程に盛り込む。

今年度も「主体的、協働的な学び」「他者を認め、自身の自己肯定感を高めるための指導や手だて」を本校児童の資質・能力を育成するための重要課題と捉え、学びの構造転換を学校教育全体で行っていく。「心の教育」を重視し、単発な指導になりがちな、「いじめ防止」「人権教育」等、非認知能力（自尊心、自己肯定感、思いやり、コミュニケーション能力等の人とかかわる力）の育成を図る目的で、総合的な学習の時間の指導計画を大幅に見直し、継続的に指導を行っていく。

（２）教育目標達成のための基本方針

◎やさしく 助け合う 浜小の子（心豊かで、友達と協働する児童）

・「協働的な学び」「対話的な学び」を日常化し、同じ目的、対等の立場で学習ができる環境を整えるためのＯＪＴ，校内外研修の充実　（全授業・校内研修）

・異年齢集団を生かした児童会活動やクラブ活動、縦割り班活動等の協働的な活動の充実（特別活動部）

・挨拶を基本とした他者との関わり方等を地域とともに育み、自他のよさや違いに気付き、認め合える児童の育成　（総合的な学習の時間、保護者・地域）

考えて やりぬく 浜小の子（主体的・対話的に学び、発信する児童）

・TB 等を活用し、情報収集力や活用能力を育成する学習の推進　（全教科・総合）

・今後求められている資質・能力の育成を目指すための学習指導力の向上　（全教科・総合）

・子供自身が課題設定する場を多くし、自ら考え、行動、解決、発信する力の育成（全教科・総合）

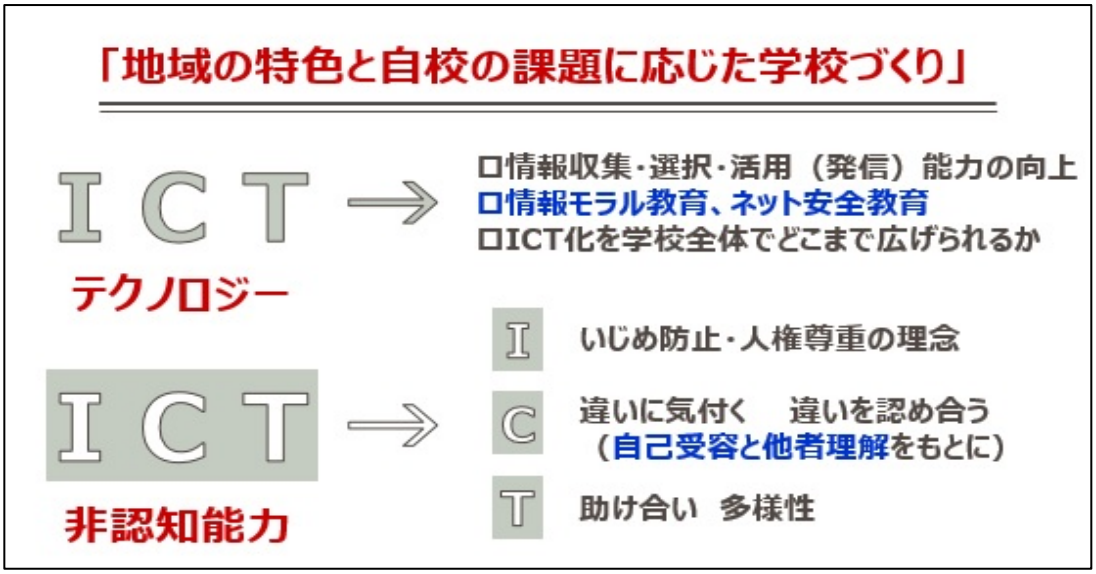
明るく つよい 浜小の子（前向きで粘り強く、創造する児童）

・児童の想像力や創造力を最大限引き出すのに必要な教師の仕掛けや手だてに関する OJT の推進　（校内研修）

・なりたい自分に向けためあてをもち、達成させることによる自己肯定感の高まりや自信につなげる指導の充実　（道徳、学級活動、総合）

・最後まで粘り強く取り組ませ、成果だけではなくその過程にも目を向ける　（全教科）

（３）日常の取組の指針となるコンセプト



5　さらなる高みを目指して

「地域の中の学校」の推進

〇ＣＳとして学校が中核となり、学校だより、ホームページ、ＣＳだよりまたは一斉メールを通じて、教育活動に関する積極的な発信と受信を行う。

〇学校支援本部や青少年育成委員会、学童クラブ等の地域諸団体と連携を図り、学校内外で児童を育てる環境を整備する。

〇これまでの感謝の気持ちと今後の貢献の決意を表す行事とするとともに、「応援したくなる学校」「協力したくなる学校」となるよう、信頼関係をより深めていく。

「教師としてのプロ意識」の向上

〇各職層における役割の共通認識と、その確実な校務遂行を図る。

〇服務規律の遵守、服務事故防止への取組を組織全体で強く推進する。

〇報告、連絡、相談、記録の日常化を図る。

〇校内研、ＯＪＴ、学年研修会等を活用し、学び合い、高め合う教師集団の形成。若手教員やベテラン教員個々の課題を洗い出し、短時間でも持続的で効果的なＯＪＴを推進する。

〇全教職員が全児童の心情や行動に対して「寄り添う気持ち」と「毅然と指導できる態度」の両方をもち合わせ、適切な指導を心掛ける。毎月の『生活目標』は教職員も遵守する。

〇危機管理は「未然防止」を第一に、最悪の事態を常に想定しながら全教職員で取り組む。

「児童と向き合う時間」「自分に向き合う時間」の確保

〇時程、行事の見直しを短期間サイクル（毎月）で見直し、日程や内容に余力のある学校運営を進める。「情報共有」を校内の絶対的ルールとし、教育活動全般についての成果や改善点をすぐに教育課程に生かすマネジメント機能を強化する。

〇「教育の質を落とさない」ことを前提とした校務改善、働き方改革を断行する。その上で余力のある教育課程の編成、実践と、職員一人一人のライフワークバランスを反映した職場風土の醸成の両立を図る。

〇ＩＣＴ機器を授業以外の校務全般にも活用し、効率化、日常化を図ることで、児童と向き合う時間や自分と向き合う時間、教材研究の時間の確保を目指す。